

## 第2回会議 委員意見の整理

1. 第2回会議の委員意見整理(振り返り)
2. 嘉数委員意見の報告
3. 上里委員追加意見の報告

特命推進課  
令和4年1月24日

## 第2回会議の委員意見整理（振り返り）

### 第2回会議の振り返り

「琉球文化ルネサンス」を実現するための課題整理に向け、以下のテーマについて意見をいただいた。

- ①伝統的価値の普及・啓発
- ②継続させるための仕組みづくり
- ③新たな価値の創出
- ④人材(担い手)の育成

※「④人材(担い手)の育成」については、①～③に分類して整理

### 【委員の意見(主なもの)】

#### ①伝統的価値の普及・啓発

伝統文化への理解を深め、次世代へ継承していくための取組の必要性

- ◆ 講師養成講座の実施と人材バンクの設置の事例（しまくとぅば）
- ◆ 検定などのツールを活用した効果的な普及・啓発の必要性
- ◆ 専門性を持った人材を育成することの必要性

琉球文化の総合的・横断的な情報発信の必要性

- ◆ 各分野で行われている取組などの情報を集約し、「琉球文化」の歴史的背景や特徴を含めた内容を、わかりやすく発信する仕組みの必要性

## 第2回会議の委員意見整理（振り返り）

### ①伝統的価値の普及・啓発

各種機関との連携した取組の必要性（学校、地域、芸大、企業等）

- ◆ 地域・学校における普及・啓発の事例（石垣島・とぅばら一ま大会、ハワイ等）
- ◆ 民間企業との連携による、歴史・文化の知識の活用、各企業の社員やその家族への普及・啓発の可能性
- ◆ 県立芸大の分校または専門学校の離島への創設等の検討について

### ②継続させるための仕組みづくり

専門的な人材などが継続して活躍できるようなサイクル（仕組み）の構築

- ◆ 沖縄の歴史や文化に関わる人材（職人など）が生活できる仕組みづくりの必要性
- ◆ 文化活動に協力する団体等への共感を広げるような取組の必要性

琉球文化の情報を集約・発信するためのプラットフォーム構築

- ◆ 各分野で行われている取組などの情報を集約し、「琉球文化」の歴史的背景や特徴を含めた内容を、わかりやすく発信する仕組みの必要性【再掲】

## 第2回会議の委員意見整理（振り返り）

### ③新たな価値（魅力）の創出

#### 他分野との連携による新たな価値の創出

- ◆ 伝統工芸（紅型）と民間企業の連携による循環型経済の実現に向けた取組事例
- ◆ （伝統工芸品を）商品としてトータルでプロデュースしていく人材の必要性

#### デジタル技術等との連携による伝統文化の新たな価値の創出

- ◆ デジタル技術を活用した今帰仁グスクの取組事例（遠隔授業や観光分野での活用）
- ◆ 学校教育における新たな技術の活用（対面授業との兼ね合い）
- ◆ 今後の沖縄や世界の状況を見据えたうえで、どのようにして文化を伝え、活用していくか、という議論の必要性

### その他意見

- ◆ 普遍的な部分と時代によって変えていくべき部分のバランスを取りながら継承することが必要
- ◆ 先人達がどのような想いを持ってこれらの文化を生み出したのかという部分も継承していくことが大切

# 嘉数委員意見の報告

第2回会議後、嘉数委員に議事内容を説明し、意見を伺った。

## 【第2回会議への意見】

- 伝統的価値の普及・啓発については、団体や個人の各取組を一体的に進めるための方向性が示されていない。今後の方向性を示し、共有することが課題。
- 実演家の多くは、兼業で舞台公演を実施しており、その努力により公演数も増加している。一方で、時間の融通がきく職業を選択している面もあるため、安定しているとはいえない。持続的に活躍できる仕組みづくりが必要。
- そのためには、琉球文化に対するニーズが必要であり、敷居を下げつつも、本質を崩さずに発信する方法の検討が必要。それが新たな価値の創出にもつながると考えられる。

## 【普及・啓発における国立劇場おきなわの取組】

- 2019年の組踊上演300周年の際には、那覇市の商業施設で組踊を演じ、化粧体験や楽器の体験を実施。イベントでは敷居は低くするが、格式は高いまま実施することで本質を損なわないよう心掛けた。
- 国立劇場おきなわでは、県内各地の民俗芸能も公演している。民俗芸能は本来それぞれ土地で演じられるもので、お金をとるものではない。しかし、国立劇場おきなわで公演することが地域住民のひとつの誇りとなっていると嬉しい。

## 上里委員追加意見の報告

上里委員から第2回会議の追加意見をいただいた。

- コロナ禍で各市町村の学校でギガスクール構想が進められ、児童生徒にタブレット端末が支給されている。こうした環境も活かす必要がある。児童生徒がオンラインで自主学習、自由研究ができるよう、子供向けの体系的な琉球・沖縄史の学習サイトを作ってみてはどうだろうか。歴史の大きな流れを把握し、あわせて首里城や空手、組踊など個別テーマもわかりやすく紹介するなど。子供向けではあるが、入門編になっているので本土の修学旅行生や観光客、大人でも利用できるはず。オンライン完結にすれば教員たちにも負担がかからないし、子供たちが自宅でも勉強できる。
- 県のさまざまな取り組みの現状をみると、空手やしまくとぅば、食文化をはじめとした個別の文化テーマがバラバラに進められている印象を持つ。個別の取り組み自体は素晴らしいのだが、歴史の流れの大枠を理解していなければ、これらがどういう意義を持っていて、どういうつながりがあるのかがわからない。「歴史の流れのなかで理解していく」という視点で戦略的に文化政策を進める必要があるように思う。
- あわせて重要になるのは、歴史の知識量を増やすだけでなく、「歴史的思考」の育成であるように思う。現在、目の前に見えるものが歴史的にどういう価値を持っているのか、その視点が沖縄の社会になかったために、戦前から戦後にかけてグスクの破壊が進んだ。あの時、人々がその価値を認識していれば、浦添グスクや越来グスクは世界遺産となり、強力な観光資源として地域経済を潤したはず。もしかしたら、現在の我々が同じような過ちを犯しつつあるかもしれない。「現在のものもやがて歴史になる」という視点を持ち、次世代に歴史・文化遺産を継承していく思考が大切。